

## AED で救える命がある！

～活かそう「AED」！ 生かそう「大切な命」！～

士別市立病院 診療部医療機器管理センター 臨床工学技士 南橋 憲

AED(エー・イー・ディー)は日本語で「自動体外式除細動器」といい、心室細動(心臓の筋肉が痙攣を起こし、心臓から血液が全身に送り出せなくなる危険な不整脈)を起こした心臓に対して電気ショック(以下、除細動という)を与えることにより、再び正しい心臓のリズムに戻すための機械です。もともと医師や救急救命士に対し使用が認められていましたが、多くの国民が救命に関与し、現場で緊急に行われる救命処置がより迅速、的確になされることによって、救命率の向上を目指すために平成 16 年 7 月より一般市民も AED を使う事ができるようになりました。

病院外での心停止のほとんどが心室細動という不整脈によって起こるといわれています。院外心停止の救命には一般市民による心肺蘇生(胸骨圧迫と AED による除細動)の実施が効果的とされ、いち早く AED を使用することで救命率が 4 倍高まるという報告もあり、傷病者の社会復帰につながります。心室細動を起こした心臓は、ポンプとしての機能を失い、全身に血液を送ることが出来なくなるため、脳や体内、心臓自身にも酸素が供給されなくなり、やがて心停止へと移行します。心室細動発生から除細動までの時間が 1 分遅れるごとに 7～10% ずつ救命率が低下するといわれ、通報から救急隊員がかけつけるまでの心肺蘇生がとても重要になります。

AED は空港や駅、学校や公共施設、企業など不特定多数の人達が入り出りする場所に設置されており、目にしたことがある方も多いと思いますが、いざ自分の目の前で突然人が倒れた場合、胸骨圧迫(心臓マッサージ)は出来ても、AED の使い方や、使うべき状況かどうかの判断が出来ないという方が少なくないのではないのでしょうか。そのような不安をなくし、的確に除細動を行えるよう、AED は初めての人でも簡単に使用できるように音声ガイドで使い方を伝える仕組みになっています。除細動に必要な電極パッドが備わっており、電極パッドを貼る位置も図示されています。また、AED を使うべき状況かどうか救助者がわからなくても、AED には心電図の診断機能が備わっているため、除細動が必要かどうかを音声ガイドで救助者に伝え、必要な場合は通電ボタンを押すよう指示が出ます。つまり、AED を使用する際に救助者が行うことは、音声ガイドに従い、「電極パッドを皮膚に直接貼ること」、「除細動が必要と判断された時に通電ボタンを押すこと」というように簡潔になっています。AED は治療機器であると同時に、除細動が必要かを診断する機器でもあります。もし目の前で人が突然倒れた場合、また判断に困った場合は、AED を迷わず使用することが大切だといえるでしょう。